

2020年度第6回理事会議事録

日時：2021年1月28日（木）17:00～19:00

会議形式：Web会議

出席理事：田口，田辺，松井，河東，渡部，原田，矢野，三好，永井，繁野，土谷，諸星，西松，森口，森田，加地，古川

出席監事：渡辺，細田

庶務幹事：佐藤（書記）

事務局：内山

【審議事項】

1. 理事会議事録確認

渡部庶務理事より，資料の説明がなされ，承認された。

2. 入会・シニア・特別会員承認の件

渡部庶務理事より，資料の説明がなされ，承認された。

浦谷 規氏をシニア会員とした

年度途中であり会員数は前回報告からほぼ変化はない。

3. 第8回近藤賞候補者推薦の件

田口会長（近藤賞選考委員長）より，選考委員会で決定された受賞者と選考理由が紹介され，

室田 一雄氏（東京都立大学経済経営学部教授，東京大学名誉教授，京都大学名誉教授）を受賞者とすることを承認した。また，内山事務局長より，受賞者が2021年春季研究発表会の参加費をすでに入金されている場合には，返金にて対応するとの説明がなされた。

4. 2021年度春季表彰学会受賞候補者推薦の件

松井副会長（表彰委員長）より，各賞の選考委員会で決定された受賞者と選考理由が紹介され提案の通り承認された。実施賞の候補となる企業を学会が関係する活動の中で積極的に探したが，残念ながら対象が見つからなかったと報告された。受賞者は下記の通りである。

業績賞 木村俊一氏（北海道大学名誉教授）

普及賞 高橋豊氏（京都情報大学院大学教授・京都大学名誉教授）

普及賞 山下 英明 氏（東京都立大学教授）

実施賞 該当者なし

5. 新フェロー推薦の件

松井副会長（フェロー会議議長）より、資料の説明がなされ承認された。新フェローは下記の通りである。

学会賞「研究賞」受賞者 神山直之氏、品野勇治氏、飯塚秀明氏

副会長経験者 該当者なし

永年功労者 笠原正治氏、米沢隆氏、田中環氏

6. 2020年度ORセミナー収支及びアンケート結果について

永井普及理事より、第1回ORセミナーの収支報告と、参加者の分布、セミナーの感想および要望に対するアンケート結果が説明された。収支報告は承認された。オンラインで工夫されていたことが良かったとのアンケート結果を受けて、田口会長より、手間にもよるが、コロナ後もハイブリットによる開催を検討していくべきであるとの見解が示された。

7. 2021年度ORセミナー実施要項・収支予算案について

永井普及理事より、2021年度ORセミナー「量子コンピュータと次世代計算機活用」は2020年度セミナーの方式をほぼ踏襲してオンラインで行うことが報告され承認された。参加費はオンサイトの場合と同様の5000円に戻すこととする。

8. 2021年度支部事業計画案について

三好研究理事より、各支部から募集した事業計画内容と決定プロセスの説明がなされ、承認された。

9. 2021年度研究部会・グループの継続／新設について

三好研究理事より、常設研究部会(5)、研究部会(9)、研究グループ(2)について、継続、終了、新設、役員交代に関して資料に基づいて説明がなされ、承認された。この中で、昨年度と今年度の活動実績のない常設研究部会「意思決定法」に関しては、動向を注視する必要性はあるものの、継続が了承された。

10. 2021年度研究部会・グループへの追加補助金について

三好研究理事より、資料の説明がなされ、承認された。田口会長から補助金の総額が30万円であることが明確になるよう、募集件数と1件あたりの金額に関する記述を工夫して欲しいという要望があった。

11. 2020年度3Q収支の件

諸星会計理事より、3Q終了した時点での収支と年度末の収支予想について資料の説明がなされ、承認された。年度末収支赤字予想額は年度当初の予想額よりも縮小されている。これは、コロナ感染防止のために活動が収縮していることと、在宅ワーク推進のための補助金を獲得できたことによっているため、収支を均衡させる努力の必要性は変わっていないという注意が述べられた。

12. 賞金額見直しの提案について

田口会長より、報告事項にある副賞金を0とするという賞金額見直しの提案の件を審議事項に組み替えることが提案された。渡部庶務理事より資料に基づき、学会の収支を均衡させるために必要だという説明がなされ、承認された。

13. 2021年度予算の件

諸星会計理事より、2020年度決算見込みと2021年度予算案について説明がなされ、承認された。学会からの支出を減らす方策は、表彰金額の削減、海外派遣補助の取りやめ、学生会員会費無料化を取りやめることに関する整理、であり、均衡にはまだ道のりは遠いという注意がなされた。田口会長より、学会のサービスを下げない範囲で赤字幅を狭め、予算がプラスで均衡するように目を向けていくべきであるとの見解が示された。

14. 機関紙電子化の件

繁野編集理事より、機関誌の発行を電子化する方向に向かうことが提案され、この方向は支出額を大きく減らすことにつながるという説明がなされ、承認された。

原田庶務理事より、図書館などで印刷物が必要な場合には、別途オンデマンド印刷できることが説明された。また、内山事務局長より150部程度、印刷媒体として残る可能性があるとの説明がなされた。田口会長より、機関紙の電子化を進める上でウェブサイトの更新が必須であり、初期版の早期実現を計画しているとの説明がなされた。

15. 内閣府への届け出（2021年2月末まで）

渡部庶務理事並びに諸星会計理事より、資料の説明がなされ、承認された。

16. 2021年度業務委託契約変更等の件

諸星会計理事より、資料の説明がなされ、承認された。

17. 2021年度通常総会日程の件

渡部庶務理事より、資料の説明がなされ、承認された。

【報告事項】

18. 2020年度第2回ORセミナー収支について

永井普及理事より、資料の説明がなされた。

19. 2021-2022年度役員選挙の件

渡辺監事より、資料の説明がなされた。

20. 新年度委員選任の依頼について

渡部庶務理事より、資料の説明がなされた。

21. 1月号のオペレーションズ・リサーチの特集について

繁野編集理事より、1月号の機関紙特集へいただいたコメントとその対応について報告がなされた。本号の趣旨についての説明を3月号に掲載することが報告された。

22. 論文誌 査読システムの利用申請の報告について

土谷編集理事より、資料の説明がなされた。J-Stageに移行した場合、JORSJとTORSJを統合する必要性が生じるが、その際は各VolumeについてNo.1からNo.4を英語論文、No.5を日本語論文として進めていくことが確認された。

23. 文部科学省申請に伴う要望書提出の件

田口会長より、研究機関からそれぞれの活動が採択されるための要望書を出して欲しいという依頼があることが紹介され、関係する理事、会長、商務理事、渉外理事などで相談して、前向きに対応していることが報告された。具体例は、京都大学数理解析研究所と九州大学マス・フォア・インダストリ研究所である。

24. 次回理事会議事予定（その他、継続審議案件等）

渡部庶務理事より、次回理事会議事予定の説明がなされた。

（その他）

- 渡部庶務理事より、支部長会議の日程を調整中であるとの報告がなされた。
- 三好研究理事より、来年3月に開催される2022年度春季研究発表会の会場が未定である旨が報告された。現状では対面でできるかどうか定かではないため、開催地の依頼についてはしばらく様子を見ることとした。なお、田口会長より、理事会で決めなければ進められない事項については理事会で一任を取り付け、次の理事会で承認を得ることで進めていくべきであるとの見解が示された。
- 永井普及理事より、ORサロンの廃止とORセミナーの価格改定の手続きについて質問がなされた。これを受けて、内山事務局長より、会計士や公益認定委員会と調整のうえ事務局の方で対応していくとの説明がなされた。

上記議決を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

2020年度 第6回理事会

議事録署名人

議長（会長） 代表理事 田口 東

（副会長） 代表理事 河東 晴子

（副会長） 代表理事 松井 知己

（副会長） 代表理事 田辺 隆人

監 事 渡辺 隆裕

監 事 細田 順子